

# 「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立七栄小学校】

平成29年4月18日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/17chousa/17chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）と本校児童の状況

### (1) 教科の調査結果から

国語A（知識）	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B（活用）	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A（知識）	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B（活用）	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

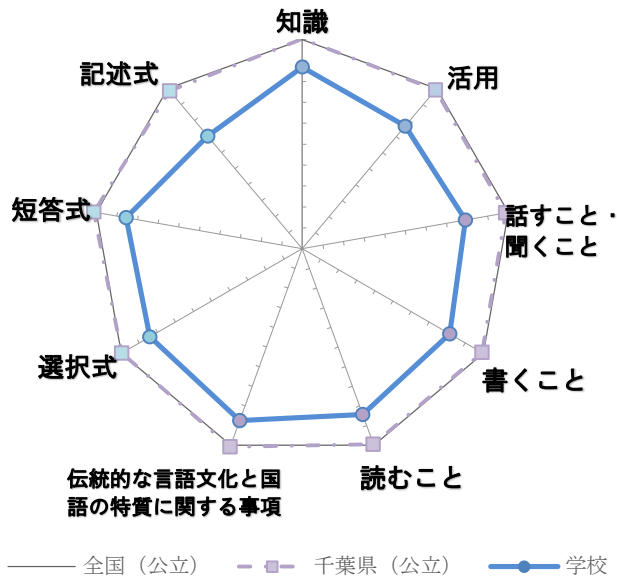
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

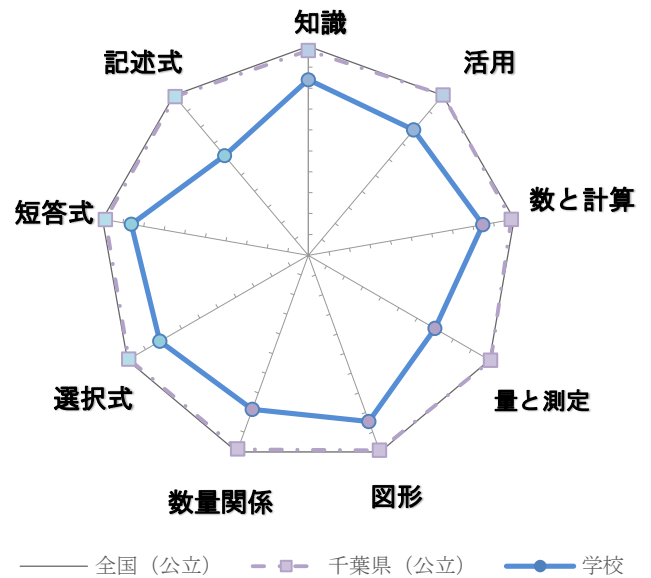
C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) レーダーチャート

### <国語>



### <算数>



## 3 結果分析

### (1) 学習面について

- 国語では「本校児童の調査結果」欄のとおり、全国平均を下回る平均正答率でした。「記述式」に関する事項に課題が残りました。「知識」は、全国平均に近づく数値を示しましたが、その知識を活用したり広げたりすることのスキルの必要性が課題となりました。
- 算数では、全国平均を下回る平均正答率で、「記述式」と「量と測定」に関する事項に課題が残りました。ドリルタイムを中心に基礎・基本の習得に力を入れたことで、「知識」に関する事項、特に「数と計算」「図形」に関する事項が全国平均に近づく数値を示しました。一方で「記述式」の問題での平均正答率が低く、併せて「量と測定」に関する事項の理解が不十分でした。

#### 【今後の方策】

- ・身に付けた知識・技能を活かし、思考力を伸ばすための授業を工夫していく。
- ・ドリルタイムと読書の時間は、今後も継続して取り組み、より充実を図る。さらに、ドリルタイムにおいて、答えが文章化できるような問題等に取り組むようにする。
- ・家庭との連携を継続し、家庭学習の取り組みを一層強化する。

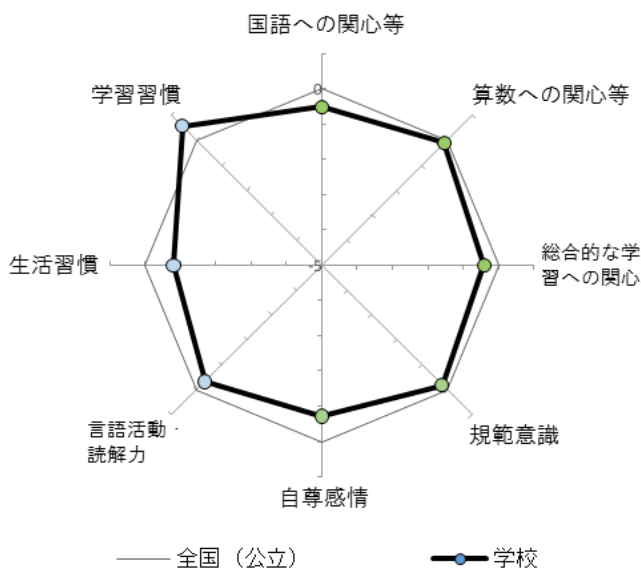
#### <国語>

- ・読んだり聞いたりしたことを目的に応じて「書く」「話す」活動につなげる授業づくりに努める。
- ・語彙力や文章表現・構成の技能などの向上を図る学習活動を定期的に取り入れる。

#### <算数>

- ・身に付けた知識・技能を活かすことができる発展的な題材を取り入れた授業づくりに努める。
- ・語彙力や文章表現・構成の技能などの向上を図る学習活動を定期的に取り入れる。
- ・それぞれの図形の特徴を理解し、それを活用・応用した活動をより多く取り入れた授業づくりに努める。

## (2) 児童質問紙調査から（抜粋）



「国語・算数への関心」「総合的な学習への関心」が高く、全国平均と同等か上回った結果となり、学ぼうとする意欲の高い児童が多いことがわかりました。

「学習習慣」については、平均を大きく上回り、「家で、自分で計画を立てる」「宿題をする」習慣が高く、家庭学習の時間が確保できていることがわかりました。

「生活習慣」の質問事項に「毎日、同じ時刻に起きる」児童は多かったのですが、「休日は、どちらかというとなんかTVやゲームをして過ごす」児童も多く見受けられました。

休日の過ごし方について視点をおき、学校と家庭との連携に一層の充実を図っていくことが今後の取り組みに必要であると考えます。

また、質問紙におけるカテゴリ内「生活習慣」の質問内容に、「家の人と学校での出来事について話をする」から、「あまりしていない」「全くしていない」と回答する児童が多く、カテゴリ内のアンバランスさが見られました。

## 4 まとめ

本校の児童は、児童質問紙調査から国語科・算数科ともに「好きだ」と回答しており、国語科と算数科の学習が社会に出て役に立つと考えている児童が多いです。各質問から、学習に対して肯定的に考えている状況が伺えます。また、読書に日常的に取り組んでいて、学校の図書室や地域の図書館を利用する児童が、全国平均に比べて多い傾向にあります。

学習状況に関する回答から、自分の考えを目的に応じて、相手に話して伝えたり、文章に書いたりすることに苦手意識のある児童が多く、「記述式」の内容結果にも反映していることがわかりました。自分の考えを表現する活動を授業に多く取り入れられるように、活動内容を工夫していきたいと考えています。

家庭学習に関しては、宿題に必ず取り組む児童が全国平均に比べて多いことがわかりました。今後も保護者に家庭学習への協力をお願いするとともに、家庭学習の内容の充実を図ってきたいと考えます。

生活面に関しては◎毎日同じ時刻に起きている児童が多い反面、▲朝食を毎日食べている児童、▲同じ時刻に寝ている児童が、全国平均を下回っています。規則正しい生活リズムの確立がよりよい学習効果をもたらすと考えています。学校でも生活改善を図るための指導を行いますが、ご家庭でもお子様の生活と照らし合わせて、話題にしていいただければ幸いです。

これからも引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。